



dare を使った慣用表現

- **How dare ...?** (よくも…できるね)

How dare you call me an idiot? よくも私を間抜けだなんて言えるね。

You've insulted me! **How dare you!** 私のことを侮辱したな。よくもそんなことを。

How dare you question my orders?

私の言うことに口答えするとは、 どういうつもりだ。

How dare you talk to me like that!

よくも私にそんな口の利き方ができたものだな。

- **I dare say** [daresay] ... (おそらく…だろう) [(主に英話) で用いる]

I dare say there was nothing we could do.

私たちにできることなど何もなかっただろう。



2 should の間違いやすい用法

- 35** We insisted that he (should) go alone. 134

我々は彼が1人で行くべきだと要求した。

- 36** It is necessary that we (should) avoid common passwords. 135

ありふれたパスワードは避けることが必要だ。

- 37** It is natural that she should get angry. 彼女が怒るのも当然だ。 136

《1》「提案」「要求」「命令」を表す動詞の後 (35) 仮定法 pp.348-350 を参照。

1) should は「提案」「要求」「命令」を表す動詞の that 節中で使われることがある。

2) 《米》では should をつけず通例、動詞の原形 (pp.348-350 仮定法現在)。

《英》でも should をつけない用法が一般的になってきている。

3) that 節の内容は「(その時点で) まだなされていないこと」。

類例 Our teacher requested that we (should) read ten books during the summer vacation.

先生は私たちに夏休みの間に本を10冊読むよう要求した。

The parents demanded that their son (should) stay at home.

両親は息子に家から出るなど要求した。

(a) I **suggested** to Yoko **that** she **(should)** buy a new tablet.

私は洋子に新しいタブレットを買うよう提案した。

(a') Recent research **suggests that** there is little risk.

最近の研究はほとんど危険性がないことを示している。

〔→最近の研究によればほとんど危険性はないということだ。〕

(b) My wife **insisted** to me **that** I **(should)** not give in.

妻は私に屈することのないよう要求した。

(b') She **insisted that** she was right. 彼女は自分が正しいと主張した。

(a) と (b) では、that 節内が 〈(should) + 動詞の原形〉 で、使われている動詞は動作動詞。

(a') と (b') では、that 節内が (a) や (b) のような形を取らず、普通使われる動詞は〈状態動詞〉または〈動作動詞の進行形〉。動作動詞の進行形の用例は次の通り。

The survey results **suggest that** Japan's economy is recovering.

調査結果は景気が回復しつつあることを示している。



【！】《ややくだけて》では、that 節内で直説法や must や have to などの助動詞に類する表現が使われることもある。特に《英》で見られるが、比較的《まれ》。

The police **demand**ed **that** I **had to** show him my driving licence.
警察は、私に運転免許証を見せろと要求した。

《2》「必要」「重要」を表す形容詞の後 (36)

1) should は、〈It is necessary [important] **that** S **should** ...〉などの構文において、必要性や重要性などの判断の内容を表す that 節で使われることがある。

2) 《1》「提案」「要求」「命令」を表す動詞の場合と同様、《米》では should をつけず、動詞の原形が用いられることが多い。

3) that 節の内容は「(その時点で) まだなされていないこと」。

類例 It is important **that** we **(should)** avoid texting while walking.
歩きながらのメールはしないことが重要だ。

【！】《ややくだけて》では、that 節内で直説法や must や have to などの助動詞に類する表現が使われることもある。特に《英》で見られるが、比較的《まれ》。

It is important **that** we **don't become** too pessimistic.
あまり悲観的にならないことが重要だ。

注意しよう! 「感情・主観」で should の省略は不可!



「感情・主観」を表す形容詞の後の that 節内では, should を取り去って動詞の原形が来ることはない。

× It is strange that he lose the game so easily.

「彼がすでに試合に負けた」という事実があるため, that 節内で動詞の原形を使うことはできない。動詞の原形を使うと「まだそうなっていないこと」になるから。

練習問題 11: 日本語に合うように単語を並び替えなさい

→解答 p.143

- ① 女性だけが家事をすることは間違っている。

It is (the housework / do / that / only / should / women / wrong).

- ② 妻は私が毎日洗濯するよう強く言い張った。

My wife insisted (laundry / the / I / should / that / do) every day.

- ③ ゴミを分別すること（種類によってゴミを分けること）は大事だ。

It is necessary (garbage / separate / that / should / we) according to type.

- lest S should ... (S が…するといけないので) (かたい書)で発信用としては使わない方が無難。

We'll take a copy **lest** we **should** damage the original photo.

オリジナルの写真を棄損してはいけないので, 複製を作っておきます。

〔《米》では普通 should をつけないで, 動詞の原形にする。最近は《英》でも同様〕

《1》 **would rather ~ (than ...)** : 「(…するより) むしろ～したい」 (41)

後に使われる動詞は普通, 動作動詞。

類例 I'd rather eat at home **than** eat out. 外食するくらいなら家で食事がしたい。

I **would rather** chat at the fast-food restaurant **than** study math at the library.

図書館で数学の勉強をするよりむしろファストフードのお店でおしゃべりしたい。

《2》 **would rather (that)** 節 : 「むしろ…だといいのに」

1) that は通例省略される。

2) (that) 節内は仮定法過去 (p.341) または仮定法過去完了 (p.343)。

3) 昔, would が動詞として使われていた頃の表現がそのまま残ったもの。

類例 “Would it be okay if I smoked here?” “Well, I'd rather you didn't.”

〔←控え目な拒絶表現。この応答文では後に smoke here が省略されている〕

「ここでタバコを吸ってもよろしいですか」「吸わないでいただけたらと思います」

I **would rather** you didn't speak loudly in the classroom.

教室でやかましくしゃべって欲しくないのですが。

I **would rather** you went home. 君は家に帰った方がいい。

I **would rather** you hadn't hung around with these guys.

私はあなたにあの連中とつるんで欲しくはなかったのですが。



《3》 **would like to + 動詞の原形** : 「…したいと思う」 (丁寧表現)

I **would like to** invite you to our house.

あなたを我が家にご招待したいと思います。

《4》 **would like ~ to + 動詞の原形** : 「～に…してほしいと思う」 (丁寧表現)

I **would like** you **to** meet my friend Akari.

紹介しましょう, 私の友だちのあかりです。

《5》 **would sooner ~ (than ...)** : 「(…するより) むしろ～したい」

I **would sooner** leave the town **than** live there in disgrace.

不名誉にまみれながらもそこに留まるくらいなら, 町を離れた方がよい。